

昨年度は、20代の教員が4人いた。20代カルテットである。そのうち3年目の教員だったH先生が、巣立っていった。2校目の新任地は、双葉地区の学校である。震災の影響が色濃く残る地域である。ぜひ、子どもたちの気持ちに寄り添いながら力を発揮してほしい。そして、自分を成長させてほしい。

今年度が3年目となるSS先生は、3年生の担任となった。いよいよ教員としてのファーストステージの仕上げである。「職能発達上の変化は経験3年目までに生起する」3年目までが勝負である。3年目までで、その後に伸びていく角度が決まる。彼にとって重要な1年となる。

2年目となるY先生は、2年生の担任となった。彼は、昨年度1年間、よくやってくれた。彼の活躍には好感が持てる。きっと彼の人柄からくるものだろう。それは、生徒にも伝わっている。今年度は、大きく飛躍する年である。決して歩みを止めてはならない。楽をしてはいけない。若いときに流さなかった汗は、老いて涙となる。

同じく2年目となるもう一人のSS先生も、3年生の担任となった。講師である彼は、教員採用試験を突破することと、自分が担任する生徒の進路実現に全力を尽くさなければならない。今までの人生で最も充実した1年にしなければならない。

そして、4月3日より、新たなメンバーが入ってきた。新採用教員のK先生である。今年度も知り合いのお子さんが来てくれた。どうもそういう縁があるようである。それだけ、こちらには責任というものがある。そう自覚している。彼には、1年生の担任となってもらった。私の方針だが、担任をして、卒業生を出して、野田中学校から巣立って行ってほしいのである。したがって、3年間にわたる彼の育成プログラムの1年目が始まったことになる。これも、私のやり方だが、教育係をつけてある。教育係の先生には、彼と一緒に成長してほしいという願いがある。

「野田中学校20代カルテット2023」がスタートした。本校の先生方がすばらしいのは、若い先生方を育てながら、自分も成長しようとしている姿勢である。その証拠に、学年主任の先生から「Y先生から学びました」などという言葉聞くことができる。その謙虚さに頭が下がる。

4人とも、大いに悩み、失敗もするがいい。一人で考えることは大切だが、先輩方に相談することは、もっと大切である。相談されれば、先輩方も考える。それが、成長へとつながる。先輩方は、自分の失敗談を語ってほしい。自分の経験を伝えてほしい。そんな職場であってほしい。人を育てる職場でありたい。成長しようとする先生は、子どもたちにとっても魅力的なはずである。今年度も20代カルテットの活躍が楽しみである。みんなで応援している。